

Vol.2 第14課

学習内容と到達目標

☞ 昔の夢と今の夢の違いは何か。また、いつ、どうして変わったのかについて話す。

指導のポイント

1. INTRODUCTION

ステップ1での学習内容が定着しているか十分に確認した上で先に進む。①では「いろいろな国へ行ける仕事」や「おいしいものが食べられる仕事」などの可能形が含まれた文を聞き、それに当てはまる職業を選択できるかどうかポイント。ただ、可能形以外の部分を聞いて答えを推測してしまうかもしれないので、答えを言わせた後に「質問は何でしたか」と聞くようにする。②も2人の職業が何かだけでなく、「この仕事を選んだ動機」や「いつも気をつけていること」などの質問にどう答えたかも質問するようにし、「～なければならない」や「～ようにしている」などの表現が定着しているかどうか確認する。

2. SPEAKING

イラストを見て、学生時代に村上さんがどんな夢を持っていたかを想像させる。

3. LISTENING

この会話も7課と同様「フレーム」がないので、会話のモデルとして使うのには不向き。したがって、ここでは会話の内容が理解でき、この課で学習する表現の意味を文脈の中で理解できればOK。

4. FOCUS

①～③で意向形の作り方を学び、④と⑤で「～(よ)うと思う」を学習するが、以下の4つの使い分けについて理解させるようにする。この課の会話では「どうして先生になろうと思ったの?」のように、そう思い始めたきっかけや出来事について話す時に「～(よ)うと思った」を使い、今と違う昔の夢や希望について話す時に「～(よ)うと思っていた」を使っている。

1 a. ～(よ)うと思う

2a. ～(よ)うと思っている

b. ～(よ)うと思った

b. ～(よ)うと思っていた

⑥の「もう」と「まだ」はこの課の話題について話す時に必ず必要というわけではないので、知識として知っていれば十分。反対に、⑦で学習する「きっと～でしょう」や「もしかすると～かもしれません」などの推量表現は必須だが、経験上、学習者がこれらの表現を日常会話で使い分けられるようになるのは中級後半か上級になってからのこと(それまではほとんどの学習者が「～と思う」と「たぶん」だけで事を済ませてしまう)。なので、練習はするが、過大な期待は禁物。⑧も同様。この課の話題に限って使えば十分。

5. LISTENING

①ではまずは絵を見ながら、3人に訪れた人生の転機について想像させる(右上のイラストが当初考えていたこと、右下のイラストが現在の状況)。その後でCDを聞き、自分の想像どおりだったかどうか確認させる。②のディクテーションは(必要な表現は[4. FOCUS]で学習済みなので)穴埋め作文にしてもよい。

6. SPEAKING

[5. LISTENING] のスクリプトをモデルにして、自分自身の人生の転機について話させる。7 課で学習した「～てよかった」や「～ようにしている／～ようにしていた」を加えると会話が少し長くなり、復習も兼ねられる。

活動例

①日本の就職活動

- ☞ 活動ではないが、山川さんが教師になるには今後どんな難関を乗り越えていかなければならないのかを話すようにすると、少しは山川さんに感情移入できるかもしれない。また、最近日本での就職を希望する留学生が増えてきているので、日本の大学生の就職事情（いつごろから就職活動を始めるのか、どのようにして企業の情報をあつめなど）や「リクルートスーツ」などの就活用語について紹介すると話題が広がる。